

# 第4回文京区アカデミー推進協議会(生涯学習分科会) 議事要旨

日 時 平成27年8月4日(火) 18:30～20:30  
会 場 文京区シビックセンター3階 大ホール会議室1  
委 員 会 長 田中 雅文 (日本女子大学教授)  
委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア  
講座企画委員会 委員長)  
委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長)  
委 員 田中 ひとみ (文京区女性団体連絡会 広報部長)  
委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会)  
委 員 小林 博 (区民公募委員)  
委 員 増田 純 (区民公募委員)  
委 員 黒田 千恵子 (区民公募委員)  
委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)

欠 席 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長)  
委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)

事務局 山崎 克己 (アカデミー推進部アカデミー推進課長)  
熱田 直道 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長)  
福田 昭正 (アカデミー推進部アカデミー推進係長)

支援事業者 株式会社創建 氏原・本多

資 料 ・「次第」及び「第4回分科会の進め方について」  
・施策体系(案)  
・平成26年度取組状況結果(生涯学習分野)

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 議 題

配布資料の確認、分科会の流れ、議題①「分野別計画の新しい体系案での事業の振り分けについて」について事務局から説明を行った。

黒田委員 文京区内の公立高校で学校開放は行われているのか。  
事務局 高校とはあまり接点がない。  
黒田委員 地域活動という視点で接点を持てるとよいと思う。  
事務局 検討する。状況はあらためて報告したい。  
柳澤委員 文京区内の私立高校とは接点はあるのか。

事務局 区内に私立高校は多くあるが、接点はあまりない。

田中会長 区から働きかけて、学校開放など、地域とのつながりを作っていけるとよい。

塩見委員 文京区生涯学習サークル連絡会を通して文京学院大学に行ったことがある。大学側もどのように地域に関わっていけるか戸惑っているようである。区との連携に可能性についても情報がうまく伝わっていないようである。

松井委員 区との関わり方については、特に東京大学など大きな大学では情報は行き渡っていないのかもしれない。

柳澤委員 文京区アカデミーの生涯学習講座も幅広い分野で開催されており、すべての情報を共有するのは容易ではなさそうである。

田中会長 大学等とうまく連携し、生涯学習の場づくりに取り組めるとよい。民間の事業者とはどのようなかたちかで連携できているのか。

事務局 ホールを持っている企業に場所を借りることはあるが、会議室のような場所を借りることは難しいと考えている。

塩見委員 区のギャラリーでの展示会などができるとよい。本物にふれあう機会を充実していけるとよい。

事務局 区で新たに施設を整備していくことは難しい。事業者との協働など、方法を考えたい。

柳澤委員 本物にふれるにはお金を払って見に行くしかないと思う。ある程度人や場を管理できないと、作品を傷つける恐れもある。

田中会長 体系案の目標1について、ほかに意見はあるか。  
(3)「ライフスタイルに応じた学習支援の充実」について、ライフスタイルではなく、ライフステージでもよいかもしれない。

柳澤委員 ライフステージの方が適切かもしれない。

田中会長 体系案の目標2について意見はあるか。

黒田委員 (2)「学習成果活用の場の充実」について、成果を集約してまとめる機会があってもよいと思う。

田中会長 論文集の作成や展示会が恒常的に行われているとよい。

黒田委員 文京区の生涯学習に関する学会のようなものがあってもおもしろい。

田中委員 区役所地下1階などの施設をうまく活用できるとよい。

事務局 アートウォールのようなものがあってもおもしろいかもしれない。区役所4階では展示も行っており、生涯学習の成果発表の機会を、より多くの区民に伝わる場所で作れるとよい。

田中会長 成果を発表する主体は、全ての区民を対象とするのか。

黒田委員 まずは、文京区アカデミーの生涯学習講座の修了生を対象として、そこから機会を拡大していけるとよい。

事務局 文京アカデミア生涯学習一日体験フェアを常設するイメージか。

黒田委員 そのようなイメージである。

事務局 庁内で検討したい。

田中会長 区民の主体的な活動を、多くの区民の見える化にしていけるとよい。

田中委員 (1)「主体的な学習活動を支える仕組みづくり」の中で、生涯学習に関わる団体の取組を網羅的にまとめることはできないか。

事務局 社会教育関係団体は、あらゆる分野の登録を可能としている。

田中委員 そういった登録を行っていない団体も網羅できる仕組みがあるとよい。

塩見委員 区の施設などを借りずに活動している人たちもいる。また、そういった活動には区外の人が参加している活動も多くあるようである。

田中会長 文京アカデミーの生涯学習講座に関わっていない人たちの活動を見える化できるとよい。そこから社会教育関係団体への登録などを通して、活動を周知していけるとよいかもしれない。

塩見委員 文京区生涯学習サークル連絡会もあるのでうまく活用していけるとよい。

事務局 社会教育関係団体の登録と合わせて、文京区生涯学習サークル連絡会にも加入する団体が増えるとうよい。

塩見委員 登録や加入のハードルを下げて、よりかかわりやすい仕組みができるとよい。

田中会長 根拠法があり名称が若干固く感じるかもしれないが、愛称などを考えて、入りやすくことと、「関係ない」と思う人を減らす工夫をしていけるとよい。

松井委員 (1)「主体的な学習活動を支える仕組みづくり」の中で「アフターフォロー」という表記があるが、これはどのようなことか。

事務局 文京アカデミーの生涯学習講座等は、講座が修了すると、そのまま活動が終わってしまう。講座の修了生同士がサークルを立ち上げるなど、講座終了後も学習を継続していけるようなフォローができるとよいと考えている。

柳澤委員 最近講座修了後にサークルが立ち上がるという話はあまり聞かない。

塩見委員 全ての講座が終わってからフォローをし始めても間に合わないと思う。講座の後半でサークル化も視野にいれた説明などができるとうよいのではないか。

黒田委員 どのように活動を継続してよいかわからない人も多いと感ずる。

田中委員 アンケートなどを用いて希望を取るなど、工夫はできそうである。

田中会長 人と人をつなぐサポートができるとよい。

(2)「学習成果活用場の充実」の中で、ワークショップなどで学びを継続し活かす方法を考える機会や、サークル化する方法を学ぶ講座があってもよいかもしれない。

黒田委員 発表の場が苦手な人もおり、全ての講座でサークル化を目指すことは難しいかもしれない。

柳澤委員 学習テーマにもよるが、座学で終わるよりも講師と参加者が交流しながら学べるようだとよい。

松井委員 講座の参加者が求めることもかなり多様であるというのが現場での印象である。参加希望者のイメージにあった講座を提供していけるとよい。

田中会長 講座の告知の段階でサークル化の働きかけをするなど、学び全体を俯瞰して適切な場面で対応していけるとよい。

増田委員 「人を集める」ということに敏感な時代になっていると感ずる。コミュニケーションをしっかりと、信頼関係をつくる延長で活動を継続する仕組みを考えていけるとよい。男性はコミュニケーションが少なく、講座が終了するとすぐ帰ってしまう方が多いように感ずている。まず会話の機会を増やせるとよいかもしれない。

塩見委員 講座の回数が少ないと感ずている。4回くらいでは仲良くなるのも難しいかも

しいと感じている。

田中会長 しかし一方で、「講座が長いので全てに参加できず中途半端になってしまうため、短期間の集中講座としてほしい」といった意見もあるようである。

松井委員 参加者の要望も多様であると感じている。長期間でじっくり学ぶ講座とそうでない講座がある。

三谷委員 個人の学びを充実するための講座と、学んだ成果を活かすための講座という違いがあるかもしれない。学びの成果を活かすことまでフォローできるとよい。

田中会長 コミュニティづくりや地域の課題解決につながる、学びだということがわかる講座が提供できるとよい。

事務局 行政としても新しい公共の担い手づくりということを考え始めている。ボランティアの養成講座などを社会福祉協議会とも連携して、情報の集約・周知に取り組めるとよいと考えている。

松井委員 目標1の(3)「ライフスタイルに応じた学習支援の充実」の中で区民に伝わる情報発信を行っていけるとよい。

田中会長 アカデミー推進課が情報の集約・発信を行っていけるとよい。

松井委員 タイムリーに情報を発信していけるとよい。

田中委員 インターネット等様々なメディアを活用して情報を発信していけるとよい。

田中会長 体系案の目標3について意見はあるか。

黒田委員 「文京学」講座は単位認定制度を設けられるとよいのではないかと。また、毎年開講できるとよいと思う。

柳澤委員 郷土史など、大学と連携して専門家の講義を聞ける講座だとよいと思う。

松井委員 これまで多くの学習を重ねてきた方も多くいる。より専門的な講座もあってもよいと感じている。

田中会長 学問として体系立てられていなくても、地域のことを深く学んでいる人もいる。学者に限らず、学びを深める講座にできるとよい。文京学のくくりで講師陣を組織して講座群を設定できてもおもしろいかもしれない。

塩見委員 テーマ型コミュニティをつくり学びを深められる仕組みがあるとよい。

事務局 文京ふるさと歴史館のような学習と、活躍の場づくりをさらに進めていけるとよい。

田中会長 文京ふるさと歴史館開館と同時に文京ふるさと歴史館友の会を結成し、ハードとソフトの両面で生涯学習の場づくりを行った。

柳澤委員 人材育成講座文の京地域文化インタープリター養成講座は、生涯学習分野を固定しているのか。

事務局 固定はしていない。

塩見委員 観光ガイドの養成講座としても機能している。

事務局 区内の歴史的な施設をガイドしていることもある。

柳澤委員 その点で、文化芸術分野にも関わりもある。

事務局 ふれあいサロン事業は今後どのように展開していくのか。

田中会長 事業を拡大し、講座を充実していきたいと考えている。

田中会長 区民の主体的な学びの場となっていくとよい。

- 松井委員 地域アカデミーとふれあいサロンを、きちんと整理して区民へ情報発信していく必要があると感じている。
- 田中委員 講座のレベル感の違いだと認識している。一定の基準など、わかりやすい説明があるとよい。
- 田中会長 学びあうことができる場づくりができるとよい。
- 松井委員 生涯学習講座よりハードルの低いものを、メセナ講座として位置づけた取組もある。
- 田中会長 区民が地域の課題解決に取り組むきっかけづくりとして、様々なジャンル、カテゴリで講座を提供できるとよい。
- 松井委員 情報の周知も十分に行い、多くの区民に興味を持ってもらえる工夫をしていきたい。
- 小林委員 3つの基本目標について、それぞれ「学ぶ」「活かす」「仲間づくり」という主旨だと思うが、順番として「学ぶ」「仲間づくり」「活かす」の順番ではないかと感じている。
- 田中会長 活かすことで仲間づくりにつなげるということだが、順番は再考してもよいかもしれない。
- 松井委員 サークルづくりについては、区民の実際の要望を把握する機会があってもよいかもしれない。
- 田中会長 学びや活動の分野によってはクローズドなコミュニティもあると思うが、横のつながりはちょっとしたきっかけづくりで発展していくこともある。
- 柳澤委員 うまい人の流れをつくって、活動が衰退しないようにサポートしていけるとよいと感じている。次の代につながらない団体もあると聞いている。
- 田中会長 無理に引き継ぐのではなく、ゆるやかなつながりの中で、区民の学びを活かす環境をつくっていけるとよい。  
最後にまとめの感想を各委員よりいただきたい。
- 柳澤委員 よく議論できてきたと思う。特に1番目に生涯学習の場づくり、2番目に人づくりで、養成された人の活用を考えることが大事だと思っていて、前から講座や企画展など「助けてほしい」と言っていたことが、活用の中でさらに工夫できるとよいと思っている。3番目のコミュニティづくりは生涯学習の最後の目標だと思っていて、これが掲げられたのはよかったと思う。事業を充実していけるとよいと思う。
- 塩見委員 時代が変わって、個を大切にしている時代になっていると感じている。皆で何かをしようというボランティア精神が薄れていると感じている。一過性のボランティアはすごく多いが、継続していくことが難しい。どう継続性のあるボランティアを育てていくかを大切にして、最終的にコミュニティを作っていくことを、あとひと押ししていける人を育成できるとよい。少しフォローするだけで動いていくこともあるので、そこをもう少しフォローしていけるとよいと思う。
- 田中委員 この会に参加して、図書館の話題が出た際に、司書の方の割合がかなり高いことを知った。それまでは、司書の方が減ったというイメージがあったので、そういうことを知ることができてよかった。先ほど田中先生からもあったが、サ

- ークルのことでも、表向きには社会教育団体に登録していて新会員の募集もあるが、ひとつのサークルは途中から新しく入るのは非常に難しい。区内でも、高齢化によって活動が立ち行かなくなっているサークルも増えているとのことだが、新しく増やすのではなくて、別の新しいサークルができればよいという考えもあると思う。こういう計画も、区民の平均年齢も少し若くなって、新しい区民も増えているようなので、そういう情勢に沿ったかたちでできていくとよいと感じている。
- 三谷委員 生涯学習というのは、興味がある人たちはどんどんやると思うが、区がそれを推進するということが外れないように、「いつでも、どこでも、だれでも」ということを念頭に置いていけるとよい。何か迷った時にこの計画が道筋になって、この計画を基準に考えが発展していくとよいと感じている。
- 小林委員 これまで文京アカデミア講座やサークルに接点はなく、場違いだったかなと思いつつ、個人で自由に勉強をするが、こういった取組みの授業料ってどこに使われているかが少し気になった。文京学については、私たちが小学生の時に「わたしたちの文京区」という冊子があって歴史に始まり色々なことを学んだ。今の小学生らは総合的学習の時間などで学んでいるのでしょうか。大人でもそういうことを学べるとよいと思っている。
- 事務局 受講料は講師の謝礼などを考慮して設定されている。ある程度受益者負担という考えに基づいている。
- 小林委員 講師は完全にボランティアではないということか。
- 松井委員 企業がメセナ活動として無償でやるケースもある。ここで講座として実施しているものは、講師の謝礼も加味して受講料を設定している。
- 田中会長 市立の大学も、同じような考え方で授業料が設定されている。子どもたちの話について、小学校3、4年生で地域のことを学んでいる。総合的な学習については、教育委員会や学校に任されてしまうので、地域ごとに差がある。子どもたちの方が大人よりも地域のことを学んでいることもある。大人ももっと地域のことを学べるとよいと思う。
- 増田委員 2回休んでしまったが、分科会に参加できて今後の自分の課題として、ただ学ぶだけでなく、将来的にコミュニティづくりにまでつながるスキルを持つことを学んでいきたいと感じた。ありがとうございました。
- 黒田委員 生涯学習に関して、すごく重要な社会的な課題だと認識している。学ぶことだけではなく、外に出て人と交流するなど、様々な要素があると思う。その全ての要素に対して今回の計画がちゃんと目標としてできていて、学ぶこと、学んだあとのこと、交流に関して網羅できてよかったと感じている。ありがとうございました。
- 福田委員 生涯学習については、図書館に勤務していた時に、「興味のない方」にどう来てもらうかを考えた。気持や家庭環境など事情はさまざまだと思うが、来てもらうことは難しいとあらためて感じた。
- 熱田委員 オリンピック担当ということで参加していたが、その部分での発言を十分にできなかった。しかし、生涯学習という分野はこれから高齢化社会を迎える中で、より重要になると感じている。行政としても機会やメニューを提供して、

生涯学習を行う人を増やしていかなければいけないが、それには人材育成など、行政だけの力では難しいところもあるので、コミュニティづくりなどは分野をまたいで共通する課題だと感じた。そうした中で人と人とのつながりといったところまで気を配りながら仕事に臨んでいきたいと感じた。

松井委員

アンケート結果にもあったが、行政には「興味のない人へのアプローチ」「情報」といった課題があると感じている。文京アカデミーとして、区民の方と一緒に一生懸命取り組んで自信を持っているが、コミュニティができているかということについては少し気になるところである。「情報」の発信がいかに大事かについては、施策の3(3)の情報発信のところでは整理できたので、今後具体的な取組がうまく機能していけるよう努めていきたい。ありがとうございました。

田中会長

この分科会では様々な意見をいただいて、うれしく思った。最後に皆さんがおっしゃったように、学ぶだけではなく学ぶことを通してつながったり、コミュニティができたり、またみんなで文京区や地域の在り方を考えていけるようなことまでいくことが好ましいと思う。この計画の体系にはその部分が表現できたと思う。特に、全体の基本目標の「つながりの構築」「新たな価値の創出」といったことにもリンクするあたりでできたので、これからは具体的な事業をどのように、生み出し、また、運用していくかが重要であると思う。行政任せではなく、区民の皆さんもウォッチしながら、ともによい事業を展開していけるとよいと思う。最後に、文部科学省がずいぶん前から言っているが、ネットワーク型行政という言葉がある。生涯学習の分野について言えば、社会教育や教育委員会だけではなくて、一般行政、あるいは、大学やNPOがたくさん学ぶ機会を設けて、それらをすべてつなげて、区民に見やすく情報を提供していくが大事だと、以前から言われている。この計画でも、アカデミーの部門だけでなく、行政の各部門がたくさん学びの機会を提供して、うまく進めていけるとよいと考えている。

山崎委員

今回の分科会は専門的な方が多くて、スムーズな話し合いをしていただけて助かりました。この施策の3つ目の柱は、新しい計画の特徴となっていくと思っているが、まだ行政としてあまり手がついていない部分なので、事業面での充実は、初めの段階では薄くなってしまふかもしれないが、5年間の計画期間の中で少しずつ高めていければよいという考えで、具体的な素案に落とし込んでいきたいと思う。ありがとうございました。

### 3. 閉 会

以上